

平成 19 年 11 月 24 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム 第 7 回講話

毎回皆様にお聞きしています。

「先週一週間嘘をつかなかった方、手を挙げて下さい」

(・・・少ないですね)

では、条件を緩和して「昨日一日嘘をつかなかった方、どれくらいおられますか？」

(・・・大分増えました)

「では、朝起きてここへ来るまでの間、嘘をつかなかった方は？」

(非常に増えました)

嘘をつく・つかぬは、誰か他人に対しての場合と、自分自身の心に嘘をつく・つかぬがあります。

先ほど代表幹事が素読の後、「性相近し、習相遠し」を説明して下さいました。

良い生活習慣を身に付けることは、その方を幸せにします。

自分自身が幸せになると、回りの方も幸せになります。

是非良い生活習慣を身に付けましょう、と冒頭に申し上げます。

もう一つお聞きします。

私は毎晩寝る時に、自分の 1 ヶ月の予定表の冒頭に書いてある言葉を思い出しながら、今日は一日どうだったかな？ と考えます。

「昨晚寝る時に、今日は一日良かったなと思って眠りについた方は、どれくらいおられますか？」

(・・・大勢手が挙がる)

「明日が楽しみだと思って眠った方は、どれくらいおられますか？」

明日が楽しみだと思って眠ると、非常に良い人生が翌日待っています。

(・・・大勢手が挙がる)

もう一つお聞きします。

「昨晚眠る時に、目先の欲望に負けてつい何かしてしまった、と思って寝た方？」

(・・・おられませんね)

是非、日常の生活習慣の中で、眠る時を大事にして戴きたい。

眠る時の一瞬をどのように活かすかによって、その人の人生はもの凄く変わります。

人生幸せにゆくかどうかは、眠る瞬間にある。

これは、西洋でも東洋でも同じようなことを言っています。

では、本日の「心に残る言葉」をご紹介します。

「子貢曰く、貧にして諂^{へつら}ふなく、富みて驕^{おご}ることなきは、如何と。子曰く、可なり。未だ貧にして楽しみ、富みて禮を好む者には若かざるなりと。子貢曰く、詩に云う、切るがごとく磋^とぐがごとく琢^うつがごとく磨^{のみ}くがごとしと。それこれをこれ謂ふかと。子曰く、賜^しや、始めて與^{とも}に詩を言ふべき已矣。諸に往を告げて來を知るものなりと。」

『渋澤論語を読む』(深澤賢治著 明德出版社)

よく、切磋琢磨する友を持つと言います。

ご自分の友人・知人を思い出して下さい。

「切磋琢磨する友をお持ちの方、手を挙げて下さい」

(数人の方、手を挙げる)

・・・もっと手が挙がると良いですね。

自分一人だけで磨こうと思ってもなかなか難しいですが、お互いに啓発しあう友人がいれば非常に結構です。

河井継之助と米百俵の話で有名な小林虎三郎の関係は、まさに切磋琢磨の友人関係でした。

小林虎三郎の方が貧で、河井継之助の方が富でしたから、小林虎三郎は河井継之助から、色々な物質的な援助を受けました。

そうすると小林虎三郎はお礼に河井継之助の所へ行き、河井継之助の直すべき所を延々と語り、それを河井継之助は聞き続けたそうです。

それで人間関係がきちり出来上がっていったわけです。

自分の欠点や間違っている所を指摘してくれる友人を持つことほど、素晴らしいことはないと思います。

今の時代ですから、心の問題や身体のこと等々、色々な専門知識を持った方々との付き合いも必要だと思えます。

では、初めての方がおられますので、「基本哲学」について申します。

基本哲学は「知足」です。

地球が誕生して 46 億年、人類は誕生して 7000 年～ 1 億年と言われます。

地球が今泣いていると言われています。

地球の温暖化現象も、一つの現れです。

温度が 2、3 度上がれば、人類には相当な影響が出まして、人類が生き延びられるかどうか分からない状況となります。

地球がおかしいというのは、人類がそう思っているのであって、他の動物・植物・鉱物は淡々と自分の運命を受け入れて過ごしているのだらうと思います。

どうかしなければいけないと、あちらこちらの国で有識者は言っているようですが、日本ではどういう動きになっているのでしょうか。

中斎塾フォーラムの顧問に、木内孝さんという方がおられます。

イギリスでブレア首相が当時の安倍首相へ環境問題について質問したところ、安倍さんはまともな返答ができなかったとの事です。

イギリスの新聞は「日本の首相の環境問題に関する知識は、イギリスの小学生以下の知識しかない」との論調だったそうです。

それでイギリスの議会在、日本の環境問題についてきちんとした話のできる人間を呼びたいという事で、木内孝さんが呼ばれて説明をしてきました。

木内さんはイギリスでおこなった講演最後の締め括りに、

「日本は駄目だと思っておられる方が多いかもしれないが、日本には、有難うございます・おかげさまで・もったいない・・・良い言葉が沢山あります。そして「足るを知る」という考え方を持っております。「知足」という考え方が日本民族の根底にある限り、日本は必ず環境問題についても、皆さま方のお役に立つことが出来ます。「知足」という言葉をどうぞ覚えて戴きたい」という内容を語ってきたそうです。

もちろん「足るを知る」という考え方は、日本だけではありません。

他の国々にも同じような考え方があると思っています。

ですから知足という考え方を、もう一度我々は見直しをして、中斎塾フォーラムの中の基本理念に据え、他の団体とも話し合っ戴きたいと思っています。

「足るを知る」・・・いわゆる拝金主義、お金があれば何でも出来るという風潮から脱して、心を豊かにしていこう。

ほどほどに満足して、毎日豊かに心を磨いていくという考え方を国内に広げて、そして世界でそういう考え方を持っている方々と手を携えながら進んでいきましょう。

そういう事を実践する場所であり、学ぶ場所であり、提言する場所でありたいと考えて、

中齋塾フォーラムを立ち上げました。

今現在、同じような事を考えておられる方は、それぞれの立場で沢山あるなと思っています。

先日は健康医療ネットワークセミナーというところに出掛けました。

今の日本の医療技術は、日本で生まれた技術が大体アメリカやヨーロッパ等に行って、ある程度形が出来て日本に帰って来ています。

日本で生まれた医療の最先端技術は、日本の中で活用したい。

日本で活用できるような土壌を作りたいという事で、日本のトップレベルにあるお医者さん達が集ってNPO法人を立ち上げました。

先日のセミナーでは、講師に木内孝さん、主催者側のお医者様の中に東京フォーラムのメンバーの方がおられました。

更に、北関東と東京フォーラムの会員さんが聴講に来られていました。

ここにも中齋塾フォーラムの輪が広がりつつあると思いました。

「知足」の考えが、世の中に広がりつつあると感じております。

では、本日のテーマ「経営と切磋琢磨」に参ります。

経営者について私の好きな言葉は、渋澤栄一さんの論語講義の中に書いてございます。

そもそも會社を経営するには、第一に必要なはこれを経営する人物の如何にあるのである。その當局者に相當の人物を得ざれば、その會社は必ず失敗に終わるべし。明治の初めに政府の創設したる開拓會社とか爲替會社とかいふものが、大抵倒壊したのは即ちその適例である。ここにおいて余は銀行や會社を失敗なく成功せしむるには、その事に任ずる當局者をして、事業上または一身上恪循するに足る規矩準繩がなければならぬと考へたのである。・・・「利によりて行なえば、怨み多し」の句がある。これ實業家の終身恪循すべき明教にあらずや。

政府が創った会社、官僚がトップになった会社は、ほとんどが駄目になっている。

なぜならば人生哲学がないからである。

良い会社かどうかの鍵は経営哲学があるか否か、基本理念があるか否かである。

その人物が私利私欲で会社を興したのではなく、世の中の為に役に立ちたいと思って会社を創ったのであれば、その会社は発展をする。

したがって銀行は、良い人物を見抜く能力を持たねばならない。

良い人物が会社を経営するならば、その会社は必ず発展する。

という事が、『論語講義』の中に書いてあります。

会社経営は人生哲学をきちんと持った方がトップになれば、必ず発展します。

銀行はその人物を見抜く能力を持たなければならないと書いてあります。

ところが今の銀行は、そうではありません。

経営をする場合において考えることは、ビジネスの経営と自分自身の人間の経営を考えて戴くと良いと思います。

経営には、目配り・氣配りが必要です。

身の回りを見ますと、今問題が沢山あります。

中齋塾ホームページの塾長の独り言でも書きましたが、今気にしているものを申し上げます。

サブプライムローン・インフレとデフレのねじれ現象・鳥インフルエンザの新型・セルビア（コソボ紛争）等々です。

守屋前事務次官のことも、ずっと追いかけて書いています。

目配り・氣配りをしますと、新聞を見る眼も変わります。

テレビやラジオを聴く時も変わります。

鳥インフルエンザのことは皆さんご存知でしょうか。

厚生省の発表によると、日本で鳥インフルエンザの新型が発生した場合に、感染者はどれくらいになると思いますか？

思い込みでこれくらいだと思ってしまうと、そこで終わりです。

調べてみようと思って、インターネットで調べれば良いのです。

厚労省の予測では、鳥インフルエンザの新型が日本で発生した場合、3200万人が感染し、少なくとも21万人、最悪64万人の方が亡くなるだろうと発表されています。

オーストラリアで公的な研究所が発表した数は、日本人の死亡予測は240万人です。

手がつけられない形で、一気に広がるだろうと言われていました。

1週間ほど前に、新型インフルエンザ対策セミナーという発表会がありまして、中齋塾フォーラムの或る方がそれに関係されておられ参加されました。

その方から話を聞き、資料も戴きましたし、他の資料も取り寄せました。

その中で、国立感染研究所の研究者さんから、

「もうIfの時代からWhenの時代に入りました。東南アジアで新型インフルエンザが発生した場合、すぐに日本に来ます。止めようがありません。だから我々は目を皿のようにして氣を付けているのです。」という報告があったそうです。

又、あるホテルの方の話で、新型インフルエンザが発生した時を考えて、アメリカから対策物資を取り寄せているという発表もあったそうです。

ですからもう始まっているのですね。

マスコミは話しませんが、それを暗示するような記事はかなりありました。

ですから新聞やマスコミ関係の報道に注意することも必要です。

それが目配り気配りです。

自分の感性を磨いて、何かでピリピリと来た時に、すかさず調べようと思うかどうかです。

おやっと思った時のショックが大きければ、すぐに調べてみましょう。

自分でおやっと思った時に、どれだけ調べられるかです。

陽明学という学問は、自分が感動したり真剣になった時に、すぐ行動に移らなければ駄目だと教える学問ですから、聞くだけ聞いて流したのはいけません。

即行動したら、情報が身体に染み込んできます。

体験することによって、皮膚感覚でものを覚えることが肝心です。

サブプライムローンについても一つ申し上げます。

皆さんご存知でしょうか？

新聞にも毎日のように出ています。

アメリカの低所得者向けの高金利型住宅ローンです。

最初は低金利なのですが、何年か経ったら高金利に化ける住宅ローンです。

おいしい話ですから仕組み債の形で全世界に広がりましたが、これが毒まんじゅうだった訳です。

毒に当たった人間が出てきて、金融機関は責任を取り出しましたから、どんどんお金がなくなって倒産が始まったわけです。

日本で買っているサブプライムローンは、1兆3000億円くらいだと報道されています。

その内、今現在目の前に現れている数字は、6大銀行グループが1000億円以上の損失とも報道されています。

全世界では33兆円とも言われています。

どうにもならなくなるのは、来年でしょう。

日本の金融機関もいくつか潰れるだろうと思っています。

サブプライムローンで怖いのは、今は低所得層がやられていますが、次は中所得層です。

ですから、来年から本番が始まります。

来年金融問題は、相当酷いものがでると思っています。

これも目配り・氣配りで、新聞、テレビやラジオ、或いはインターネット等、自分でおやっと思った時に調べて下さい。

調べれば調べるほど、核心に近づいていきます。

経営をする時には、そういった目配り・氣配りがどうしても必要です。

その目配り・氣配りを活かすものは、自分に経営哲学があるかどうか、突き詰めれば人生観です。

自分がこの世に生まれてきて、どういう一生を過ごすべきか。

人さまのお役に立つにはどうしたらよいか、という考え方を持っているかどうかです。

自分だけ儲ければ良いという考え方の人は、脱落をしていきます。

世の中に害だけを流すと考えています。

切磋琢磨について申します。

私の書いた『渋澤論語を読む』に詳しく書いてありますので、後でお読み戴きたいと存じます。

切磋琢磨は人が成長していく過程を表しています。

「切」は、経営者で言うと独立をしたばかりの時です。

「磋」は、独立した後で滅茶苦茶に働いている時。

あの人に頼んだらやってくれるのではないかと、回りに期待感を持たせるような社長になっている段階です。

「琢」は、良い仕事がどんどん入ってくる。

良い人が良い仕事を持ってきてくれる。

ライオンズクラブやロータリークラブに入って、それなりの活動をしている。

地方の名士になっているような状況です。

しかし自分でもここまで来たかと思えるようになると、その人はそこでお終いです。

「磨」は、本当に良いご縁ができて、次から次に良い話が舞い込んできます。

自分でも良い毎日・良い人生を送れているなと思うようなところまでいくと「磨」です。

切磋琢磨は、その人がどこらへんの人間的なレベルに来ているかを表す指標であると同時に、宝石の工程を一致しています。

経営の実践の中で切磋琢磨をよく考えて戴くと、良い会社になるのではないかと思います。

今日のポイントをもう一度いくつか申します。

ピリッと来たら調べて下さい。

安岡干支学で言うと、来年は「戊子」です。

今現在、社会保険庁その他問題がありますが、更に酷い問題が起きて、どんどん鼠算的に問題が広がっていきます。

鳥インフルエンザの新型も、もし来年発生したら大変な事態になります。

1週間から1ヶ月間は外に出られない状況になるはずですから、食糧も備蓄しておかなければなりません。

サブプライムローンは、来年日本が経済の悪化を招く元凶の一つになります。

現在のインフレとデフレのねじれ現象は、来年加速します。

それによって国民は相当な苦しみに巻き込まれると思っています。

倒産は続出し、給料は上がらない。

今のうちに氣をしめて目配り・氣配りをしていかないと、来年過ごすのは大変だと思います。

今の内に自分なりの対策を考えて実行し始めていけば、良い方向に変えていくことは可能だと思っています。

以上で本日の講話を終了と致します。有難うございました。